



腎臓内科医が 腎臓病患者さんにできること

京都大学大学院医学研究科
腎臓内科学講座 教授

柳田 素子



腎臓内科の守備範囲は私が大学を卒業した1990年代と比べて飛躍的に広がりました。腎臓病患者さんは腎臓内科のみならず院内のどこの診療科にも存在し、大なり小なりその科の診療内容に影響を及ぼしています。この現状において腎臓内科医にはどのような役割が求められているのでしょうか。

私たちの講座は設立して1年半ですが、その間に「院内発症腎障害検出プログラム」、「透析患者の癌治療の現状把握と標準化に向けた試み」、そして「慢性腎臓病の病態解明とそれを基盤とした創薬の試み」の3点に取り組んでまいりました。

本会では当科の歩みと今後の方向性についてご報告し、皆様のご意見を頂戴できましたら幸いです。

略歴

- 1994年 3月 京都大学医学部医学科卒業
- 1994年 6月 京都大学医学部附属病院(研修医)勤務
- 1995年 4月 兵庫県立尼崎病院(内科医員)勤務
- 1997年 4月 京都大学大学院医学研究科博士課程(内科学専攻)入学
- 2001年 3月 同修了、博士(医学)取得
- 2001年 11月 科学技術振興機構 ERATO柳沢オーファン受容体プロジェクト研究員
- 2004年 6月 京都大学大学院医学研究科21世紀COE“病態解明を目指す基礎医学研究拠点”COE助教授(2007年4月よりCOE准教授)
- 2007年 7月 京都大学大学院医学研究科キャリアパス形成ユニット講師
- 2010年 4月 京都大学次世代研究者育成センター「白眉プロジェクト」特定准教授
- 2011年 10月 京都大学大学院医学研究科腎臓内科学講座 教授